

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター

実施月日：令和4年9月2日

実施場所：大郷町保健センター

1 検討内容

No	検討項目
(1)	令和4年度普及指導計画について
(2)	「プロジェクト活動の取組状況について」 No.1 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着 No.2 「シャインマスカット」の産地形成に向けた生産・販売力向上 No.3 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着 No.4 水稲乾田直播の技術定着による収量向上

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
(1) 令和4年度普及計画について	A委員 3 B委員 4 C委員 4 D委員 4 E委員 5 F委員 5 G委員 4 平均 4.1	<p>・県の10か年計画には、持続可能な農業、儲ける農業とありました。持続可能や儲かる農業とは何を達成すればいいのか？それを具体化することが大事だと思います。その具体化したビジョンに向けて、さらに具体的な目標をたてることが大事です。目標を達成した先にはビジョンに近づいていくことが大事です。このあたりが、明確に連続して見ると、外部の委員の理解も進むのかと感じました。</p> <p>・様々な農業分野での課題に対する計画の設定と思われました。関連を持つ関係機関が農業以外の関連も良いと思えました。</p> <p>・現在の農業は、法人、組合法人、専業個人、兼業個人等様々な経営体があり、その組織、個人ごとに多種多様な問題、課題を抱えている。その課題を適切に捉えた指導計画になっていると思います。</p> <p>・現在の仙台圏の農業者が抱える課題に合わせて計画を作成し、活動しており、評価できるものといえる。他方で、今回の活動評価は、プロジェクト活動を中心に行っていることから、新規就農者支援など、プロジェクト活動ではない農業者支援の事業も普及センターとして行っているにも関わらず、評価者に対して十分な評価が得られていない部分もあるように感じられた。その意味で、関係機関や農業者連携等に対して、それらについても示すなど、見せ方を変えてもいいのではないかと思う。</p> <p>・重点活動において「多彩な園芸の振興」「担い手の確保・育成と経営体の体質強化」「先進的農業経営体の技術導入・活用支援」ということで、それぞれバランスのとれた活動計画を選択していると思う。特に共通の課題でもある新規就農者の確保・育成・定着支援については、その成果も期待していますし、実際にどういった内容で、どれだけの成果があったか情報提供いただければ参考にできる部分もあるのかと思う。</p> <p>・普及事業の指針・方針に沿った重点項目を設定し、課題および活動内容を的確に捉えた計画内容となっている。</p> <p>・広範囲にわたる計画ではあるが、今後の宮城の農業活性化に向けて避けて通れないものですので、積極的な展開を期待する。</p>	<p>・「みやぎ食と農の県民条例基本計画」に掲げています目標のうち農業関係については、各施策により「持続可能な農業」「儲ける農業」等の実現に向けて個々の普及活動を通して取組んでおります。それらをまとめた施策の目標達成状況については、「宮城県産業振興審議会農業部会」で評価・公表されています。今後はわかりやすい公表の仕方を検討したいと思います。</p> <p>・ご意見ありがとうございます。計画作成に当たっては、地域の実情や課題、解決すべき方向を検討して課題化しております。今後とも関係機関と情報共有を図るとともに、農業分野に限らず様々な異業種の方々とも連携し、助言等を頂きながら課題解決に向けて取組んでいきます。</p> <p>・農業の経営形態が多様化し、抱える課題も様々であることから、同様の問題を抱える経営体間の情報共有を図り、現場の課題解決に向けて普及事業を進めていきます。</p> <p>・プロジェクト課題での取組に対して御評価いただきありがとうございます。普及センターでは、新規就農者支援も含め、プロジェクト課題以外にも多岐にわたって活動していることから、まずはプロジェクト課題について、重点的に評価・ご指導をお願いしたいと考えています。</p> <p>・重点活動のうち「新規就農者の確保・育成・定着支援」につきましては、日ごろから支援対象者の状況に応じて栽培技術等の支援を行っています。これまでも新規就農の相談があった際には、各市町村と情報共有していますので、引き続き定着後の営農状況等についても共有していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。次回の検討会の際、ポイントをしばって説明できればと考えております。</p> <p>・今後も農業生産現場の課題解決に向けて普及活動を行ってまいりますので、引き続きJAの皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>・管内の特徴である都市近郊の多様な農業展開に向けて、今後も農業者に寄り添いながら、JAをはじめ関係機関と連携を深めながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>

<p>(2)令和4年度プロジェクト課題</p> <p>No.1 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着</p>	<p>A委員 4</p> <p>B委員 3</p> <p>C委員 4</p> <p>D委員 4</p> <p>E委員 4</p> <p>F委員 3</p> <p>G委員 3</p> <p>平均 3.6</p>	<p>・えだまめは、山形県の鶴岡や新潟の黒崎市など、水田転作の園芸品目として過去に実績のある品目であり、高収益作物として親和性の高い品目であると思います。排水対策の検証や収穫作業を意識した播種計画の指導の工夫が感じられました。本年の災害についてはこうした普及活動の取組も一瞬にして断ち切ってしまうので、皆様の失意は大きかったと思います。今後は生産技術の検証だけでなく、えだまめに取組んだ場合の経営の収支や雇用の効果等を具体的に見える化することで、対象生産者の成長にもつながることを期待しています。</p> <p>・生産・栽培技術の指導は、大雨などがあつたにもかかわらず、大変だったと思う。農家の収入増加へ販売先を踏まえた指導をお願いしたい。国の生産調整に頼るだけではない目標設定ができればと思います。</p> <p>・今、国で水田農業の高収益化を推進している。これから土地利用型法人が高収益作物を導入していくきっかけとしてえだまめ生産は、機械化が進み比較的取組やすい作物だと思っています。まだ、生産技術、排水対策、品種選定等、多くの問題があると思いますが、導入定着に向けて助言、支援をお願いしたい。</p> <p>・播種前の時点で、複数の手段を用いて、えだまめに必要とされる水はけのよい環境を探そうとするなど、計画的な取組は評価できるものと言える。他方で、7月の水害など、想定外の事項が起きた場合であっても、プロジェクトの中でリカバリを考える余地もあつたと思われることから、さらなる取組を求めるもの。</p> <p>・排水対策・雑草防除等実証し、その調査結果により、その効果検証ができたことは、品質と収量確保に繋がるものになると期待できる。</p> <p>・土地利用型法人は、一作物の作付面積が大きくなるため、どうしても機械化体系が取れる作物に限定されてしまう。当 JA 仙台管内でもえだまめの生産を推進しているが、昨年はコロナ禍の影響もあり販売に苦しんだ。また、他県でも産地化が進んでいることから、更に工夫を取り入れ、販売価格をいかに安定させるかが課題である。</p> <p>・気象変動に大きく左右される土地利用作物ではあるが、作期分散や、高度な排水対策などが必要とされる中、新たに現地実証ほの設置は評価できる。早期には場に見合った高品質で安定収量を確保できる栽培技術の確立を期待します。</p>	<p>・水田農業におけるえだまめの安定生産に関しては、排水対策が最重要課題と捉えています。今後、収量や土壌環境改善について効果検証を行います。また、これらの結果を踏まえて引き続き、現地に適した排水対策技術の導入について支援していきます。</p> <p>・栽培技術や品種選定等について支援し、えだまめの生産体系の確立と導入定着を図っていきます。</p> <p>・土地利用型法人がえだまめを導入する条件として、JA全農みやぎが主催する仙台えだまめサプライチェーン事業に参画し、選別・調製作業を分業化する体制は欠かせないものと捉えており、販売に関してはJA全農みやぎと連携してまいります。</p> <p>・経営面の評価については、対象法人の協力を得ながら、経営指標の作成を進めてまいります。</p>

No.2「シャインマスカット」の産地形成に向けた生産・販売力向上	A委員 5	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会でも話しましたが、需要の高い新品種に着目し、単に普及するだけでなく、部会の組織化、生産技術、販売先やブランド化まで産地を作る支援をされており、これこそ普及活動の優良事例であると感じました。シャインマスカットは価格が高く、ブランド化が大事ですので、シールのデザインや箱のデザイン、資材の選択は専門家を入れてしっかりとしたものを作ったほうがいいと思います。また、イタガキやスーパー、百貨店のバイヤーを今日のように現地視察をさせることが最大の営業となりますので、全農みやぎとの綿密な打合せを期待します。活動3年目は部会員が自主性を持ち、年間の活動計画の作成から伴走支援していくことで、部会のリーダーの育成も盛り込んでいただけたいと思います。今年はJAあさひなのシャインマスカットをぜひ買いたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県としても、ブランド化イメージの創出の重要性を認識しており、県統一出荷箱や出荷袋等については、全農みやぎを中心に専門家の意見を取り入れて作成している段階です。また、当部会オリジナルのシールについては、今年度の出荷には間に合わなかったものの、次年度に向けて、今後、専門家の意見等を聞きながら、部会役員会等で検討し、作成に向けて支援を続けます。 ・ご指摘のとおり、プロジェクト課題は令和4年度で完了するものの、次年度の部会活動に向けては、リーダー育成も視野に入れながら、部会役員とともに協議を重ね、継続して支援します。
	B委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間が2年とは、2回しか作付けできないので、今後継続した指導をお願いします。部会の取組は、指導はすばらしく、その部会には新規就農者や若い担い手を取り込み、更に発展させて欲しいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普及活動の展開にあたっては、関係機関と連携しフォローアップをしていきます。その中で、新規就農者や若手担い手等、掘り起こしに取り組んでいきます。
	C委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・現地視察をして生産技術の高度化、省力化支援により既に品質の良い生産ができていたと思いました。ですが、生産量、面積が少ないようなので、今後は生産量、面積拡大に向けた支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係機関と連携して、新規栽培者の掘り起こしや部会活動を支援し、産地として生産量、面積拡大を図っていきます。
	D委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャインマスカット」のさらなる生産技術向上の取組みは、事前の現地視察も含めて非常に、意義深く、評価できる。他方で、販売力向上については、黒川地域という地域にとどまらない、汎用力の高いものであり、産地を広い観点で見た場合では効果があるが、地域性が薄れてしまったのではないかとも思われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の販売力向上については、今後、当部会の商品がより消費者に選ばれるために、県内初のぶどう部会という有利性を活かしつつ、地域ブランド力向上に向けて関係機関と支援します。
	E委員 5	<ul style="list-style-type: none"> ・増収・省力技術がこれまでの検証もあった中で、しっかりと実践できていた。今後の実需に対応した販売戦略にも期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、シャインマスカット出荷時期に合わせて実需者ニーズ調査を実施する計画ですので、それらの内容も活かしながら販売戦略の策定を支援します。
	F委員 5	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で部会活動や規模縮小が進む中で、新たな部会組織を設立し、しかも年々部会員が増えていることに驚いた。視察先の農家は定年帰農者とのことであるが、農業にやりがいを感じ、楽しみながら、消費者ニーズに応じた栽培に取り組んでいた。 	
	G委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上により品質・収量も向上してきている。産地化構築に向けPRパンフレットの作成や、出荷用シールの作成など、販売方面へも焦点を当て両輪で展開しているところも評価できる。令和4年までの支援ではあると思いますが、その後の支援も引き続き検討を思料されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普及活動の展開にあたっては、関係機関との連携しフォローアップをしていきます。その中で、新規就農者や若手担い手等、掘り起こしに取り組んでいきます。
	平均 4.4		

No.3 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化	A委員 3	<ul style="list-style-type: none"> 農事組合法人は設立した後が実はスタートだと感じておりますが、後継者不在のまま課題を先送りにして経営している法人が多くなってきているように感じます。あきう生産組合は、一般の農事組合法人のように規模や設備投資で経営していくというよりは、ソバの販売やイベント、グリーンツーリズム等、6次化の要素を加えていくなど、法人の具体的なビジョン形成が大事であるように感じました。いろいろな園芸品目をされていますが、何かに絞ることも必要であると感じました。一方、現在の構成員だけでは6次化などの新しい取組に挑戦することは難しいため、遠方からの移住者や秋保のまちづくり活動団体、旅館組合、地域おこし協力隊などを巻き込んでいくことも大事であると思います。そのための場づくりや各構成員と後継者との話し合いの場づくりなど、次年度はより人づくりの視点で計画を立てていただくといいかと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 当法人は、令和2年度に外部コンサルタントにより中長期計画を作成しました。この計画に基づき、令和3年度からプロジェクト課題対象として選定し、活動しております。しかしながら、策定当時と現在とでは、農業情勢や構成員の考えも一部変わってきており、対象法人と相談しながら、ビジョンの見直しをしていきます。 園芸作物については、現在主力としている水稲・大豆・そばと作業競合しない品目を試作導入したのですが、技術の定着状況等をみながら今後検討してまいります。 6次産業化の動きについては、秋保地域の飲食店にそば粉の販売や、製菓業者から米粉の利用について相談があるなど、地域と連携した取組が増え始めています。また、野菜ソムリエの資格を有する構成員が加入するなど、組織としても新たな動きが始まりつつあることから、これらの活動も支援してまいります。
	B委員 3	<ul style="list-style-type: none"> 高齢の生産組合という事で難しいとは思いますが、ぜひ若い後継者につなぐ工夫をしてほしい。女性や新規就農、「半農半X」など、多様な人材を集めて秋保の活性化をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の存続のため、新たなメンバー、多様な人材が必要とされるところではありますが、まずは構成員の親族等、身近な人たちへの働きかけを行い、地域農業を支える必要性を認識してもらえよう活動を現在検討しています。
	C委員 4	<ul style="list-style-type: none"> 新規雇用者の環境、周年雇用に向けた環境作りが役立つ支援になっていると思います。新規雇用のもう一つの課題が、雇用者と雇用元(農業者、農業法人)の意識、考え方の違いがあると思います。双方の意識改革に向けた支援を同時に取り組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「若い後継者」の必要性については、組織として感じているところではありますが、現時点では周年雇用には踏み切れないでいます。周年雇用のための環境づくりの1つとして園芸品目の導入を図り、技術・販売の面でJAと連携しながら定着に向けた支援を行っています。
	D委員 4	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化や組織運営人員の不足など、どの組織にもある程度共通する非常に困難な課題に取り組んでおり、プロジェクト管理の困難さがしのばれるなか、一定の取組を行っており評価できるものと思われる。最終段階に向けて、さらなる成果が出せるよう期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用側の意識改革に向けては、周年雇用を実践し、優良な経営をしている法人の視察を通じて、様々なアドバイスをいただきましたので、これらをヒントに引き続き働きかけを行ってまいります。
	E委員 4	<ul style="list-style-type: none"> 既存の水稲・大豆・そばの売上を着実に伸ばしてきており、しっかりと安定生産技術支援ができてきているのかと思う。また、そらまめ等の新規園芸品目の導入がしっかりと技術支援のもとで定着し、地域特産品目になることを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> この課題は3年間のプロジェクト課題であり、同じような課題を持つ組織・法人へも波及できる事例となるよう努めてまいります。
	F委員 3	<ul style="list-style-type: none"> 今日の農業における最大の課題は、後継者(担い手)の育成ではなかろうか。個人経営農家に限らず法人化した組織にも同様の課題となっている。法人成立当時は良かったのだが、法人経営が安定してくるおおむね10年後には構成員のほとんどが高齢者となっている。法人化すれば若い人が研修・就業先として構成員に加わり、将来の後継者として期待されていたが、中途退社しているケースが多く、現状では思い描いたような状況にはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規園芸品目については現在「試作」の段階ですが、JAと連携しながら定着に向けて技術支援を行います。 新しいメンバーの確保・育成・定着に向けて継続的に支援を行ってまいります。
	G委員 3	<ul style="list-style-type: none"> 集落営農法人は大概が転作組合などからのランクアップで、新たな作物導入(特に園芸作物等)など非常に難を示すものと認識しております。その中でソラマメの導入などの経営確立に向けての支援を期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規園芸品目については現在「試作」の段階ですが、JAと連携しながら定着に向けて技術支援を行います。
平均 3.4			

No.4 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上	A委員 4	・先日、別の普及センターの所長から、宮城県の稲作は機械化と農薬の進歩で大きく収量が変わってきたという話を聞きました。これからは、この乾田直播技術が未来から見た歴史の転換点となるのか、非常に重要なテーマであると思います。だからこそ、普及センターとしての将来像を描き、各地域のリーダーを引っ張っていく重大な使命があると感じます。県内15%の目標など数字を前面に出していくことや優良事例の紹介、Q&A集、作業のガントチャートなど、さらに具体化して支援していただけたらと思います。可能であれば動画なども見せていただけたら嬉しいです。	・乾田直播栽培技術のレベルは、10年以上栽培しているベテランの方から、今年始めたばかりの生産者まで様々です。生産者のレベルを引き上げるためにも、優良事例紹介等指導対象に合わせて普及手法を工夫しながら取り組んでまいります。さらに、プロジェクト課題の成果を広く発信し、県内目標達成に向けて、乾田直播栽培の面的拡大を推進してまいります。
	B委員 4	・水稲は、大規模も大変厳しい情勢の中、他の地域との横のつながりが良かったです。今後は技術のみにとどまらず、SNSでの発信や、新しい米の販路など、明るい稲作を希望したいです。	・開催した毎月の勉強会については、ブログを活用して情報発信しているところです。今後は、各種広報手段の活用を検討し、生産者の思いや努力姿など、幅広い情報発信に努めてまいります。
	C委員 4	・乾田直播栽培の技術は、作業分散により水田での高収益作物との組合せが期待できる。これから始まるデジタル田園実装拡大事業、アグリテックの活用も取り入れてさらなる技術向上に期待する。	・乾田直播栽培の推進にあたっては、アグリテックの視点も取り入れ、栽培技術が向上するよう取り組んでまいります。
	D委員 5	・水稲乾田直播栽培の情報交換を行うゆるやかなネットワークができるなど、技術定着に向けての環境整備ができつつあることを評価したい。収量向上については、最終的な単収を追求するだけでなく、失敗事例が少なくなることも目指して、低コスト栽培の追求も併せて行っていただくことも期待する。	・ネットワークについては、参画する生産者を増やし、さらなる生産者同士の活発な意見交換が図れるよう誘導してまいります。収量向上については、勉強会での集団指導と個別指導を併せて行い、確実な技術定着を図ることで、より低コスト化が図れるよう支援してまいります。
	E委員 5	・水稲の乾田直播栽培の技術確立（収量向上）は、今後の水稲栽培に必要な取組になっていくものと思っているので、しっかりとデータ取得・分析していただき、普及に繋げていっていただきたい。	・今後、水稲生育・収量調査結果と耕種概要を照らし合わせて多収及び低収要因を解析していきます。その結果は1月に開催する振り返り検討会で情報提供し、栽培技術の修得を支援してまいります。
	F委員 4	・水稲乾田直播栽培の作柄は、ほ場条件やその年の気候にも大きく左右される心配はあるものの、今後稲作に取り組む農業者は特定されてくることから、労力やコスト削減を図る上で非常に有効な技術です。 引き続き、栽培技術の向上を図り、生産者のレベル統一がなされることを期待しております。	・生産者の栽培技術の向上とレベルの底上げについては、JAや東北農研センターなど関係機関と連携して、今後も現地勉強会や振り返り検討会を開催し、これらを通して、疑問解消を図り、さらなる技術向上に繋げていきます。
	G委員 3 平均 4.1	・担い手不足により農地の集約化が加速する中、注目される技術の1つであり、作業機の導入コスト等の課題はありますが、移植並み安定収量が確保できれば非常に普及活動にもつながるものと思います。	・移植栽培並の安定した収量確保ができるよう、課題の明確化とその解決を図るなど、引き続き支援していきます。
その他	A委員	・今後は、規模拡大する経営者への支援と定年就農など楽しむ農業、産地化など面での支援と大きく二つの方向性があるかと思います。 ・前者では個々経営体の課題を把握し、深く入り込む支援が大事であり、後者はJAや市場とも連携しながら販売や選別、これからは機械の共同利用なども必要かと思います。どちらにせよ、普及センター単独ではなく、連携しながらいかに産地を作っているかが大事であると感じました。また、普及センターは生産技術指導可能なことから、産地化の中心にあり、核であると思います。 本日は、現地視察、動画なども含めて大変勉強になりました。	・農業の経営形態が多様化している現状においては、普及センター職員だけでは対応が難しいことから、JAをはじめ民間等の最新技術のサポートをいただきながら、農業者の生産技術向上を図り、経営安定に向けた支援を行っていきます。
	B委員	・重点活動や一般活動についても、情報を知りたい。日々農業情勢が変化する中、目標値や内容も変換していく必要があるかと思っています。	・重点活動や一般活動については、次回の検討会の際、ポイントをしばって説明できればと考えております。また、年3回発行の「普及センターだより」やインターネットで「農業普及現地活動情報（通称：普及ブログ）」等で随時、情報発信していますのでそちらについてもご覧いただきますようお願いいたします。 ・目標値や取組内容については、今後も必要に応じて修正していきます。
	G委員	・各分野の課題解決に向けた取組は非常に、困難を要するとは思いますが、JAとしても同じ視点で取組たいと思いますので今後もよろしくお願いたします。	・農業分野で抱える課題は困難なことが多く、普及センターだけでは解決できないことから農業者により近いJAとの連携は不可欠であると考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する

